

# 研究推進委員会通信

平成 31 年 1 月 28 日

今回は私自身が授業改善として実施したことを紹介します。私が後期に力を入れたのは「自己評価表」の導入です。これは、白鳥中学校での授業研究会で英語の教科担任が「授業内容まで記載された自己評価表」を使用していたことを参考にしました。2年生の授業において11月から1月の情報処理検定3級受験までの約3カ月間実施しました。また、その効果の確認のため検定終了後に生徒を対象としたアンケート調査を実施しました。結果は以下のとおりです。

Q1 自己評価表は授業の理解度に貢献したか

	合格者	不合格者	未受験
した	72.0%	28.6%	33.3%
しない	12.0%	28.6%	66.7%
わからない	16.0%	42.9%	0.0%

Q2 自己評価表は学習意欲の向上に貢献したか

	合格者	不合格者	未受験
した	64.0%	28.6%	33.3%
しない	36.0%	71.4%	66.7%

## 学びやすさに貢献したという感想

- ・前は自分が終われば休憩していたが、自己評価をAにするために友人に教えるようになった。自分の再確認に役立った。
- ・あきらめることが多かったけど、70点以上とれるようになりました。
- ・やらされるんじゃなくて、自分から学習に参加しようとした。
- ・苦手なところをしっかりと勉強しなくては大変さを知りました。
- ・先生のコメントで頑張りが褒められているようでやる気になった。努力は自分を伸ばすとわかりました。
- ・自分がどれくらいとかがわかったし、評価が悪いときは次に頑張ろうと思えた。良い時は成長を実感できた。
- ・実技をやるたびに楽しさが湧いてきた。
- ・自分のできていないところを知って学習意欲が高まったし、自分自身のプラスになった。
- ・自分の授業に対する意識が変わっていき、評価も上がっていった。検定を受けて良かった。
- ・周りの人に教えることができるようになった。
- ・その日にできなかったことを次にどのように頑張りたいということが書けた。
- ・前の授業との比較ができ、自分の成長がわかりやすい。
- ・前回よりも良い点数をとろうと意欲的に取り組める。
- ・自分の自己評価が上がっていくことで嬉しかったし、次に頑張ろうという気持ちがつくれて授業が楽しくなった。
- ・前の時間に何ができていなかったのかがわかるので、それを活かして同じ問題で間違えないようになった。
- ・前回より頑張ってみるなどができた。
- ・目標があると頑張れる。やる気がでると受かりたいと思えるので頑張れた。
- ・自己評価がBやCからAまで上がっていくのを見てもっと頑張ろうと思えた。
- ・自分のダメなところがわかるので、今日はここを頑張ろうと思うようになったら少しずつやる気ができました。
- ・細やかなチェックリストをつくってみるともっと良くなると思う。
- ・できるわけがないという気持ちからできるようになって楽しさを感じられた。もっと難しい問題を解いてみたいとワクワクした。
- ・できるようになるということが勉強のモチベーションにつながる。自信にもつながる。

## 自学自習（家庭学習）について

- ・過去問題を打ち出して検定勉強をしました。
- ・家でもプリントが終わってからノートに何度か勉強した。勉強時間の足りなさや内容の薄さを感じた。
- ・自学でやらなかったことは改善していきたい。
- ・しっかりと頑張ることができた。受かってなくても受かってなくても参加できて良かった。
- ・1回やったプリントをもう1回見直して自主学習にすることができた。
- ・自分の中では100%を出したつもり。検定に合格したかったから。
- ・教科書を見ながら勉強することができた。
- ・検定は進路につながる。今回のことを生かして自習できるようにしたい。
- ・自主学習でがんばって良かった。
- ・問題を調べて直してやった。家での学習に取り入れられて良かった。
- ・次回の検定は徹底的にわからないところはわかるまでやりたい。
- ・家でパソコンの練習をした。
- ・最初は全然やる気がなかったけど受かりたいと思ったので頑張りました。
- ・家でプリントをやって努力をしました。自宅での学習時間が少なかったと思うので次はもっと学習したい。
- ・しっかりと勉強しておくべきだった。
- ・自主ではできなかったけど、授業中にめっちゃくちゃ集中して解けた。
- ・苦手だった用語をがんばって覚え直した。
- ・毎日15分だけれどしっかりとやるようになり、勉強の意欲が高まった。将来に役立った。

その他、自己評価に対するアンケートと検定の関係を分析してみると、自己評価表をうまく使いこなせていない生徒が合格できていないことがわかります。また、検定を受験しない生徒に関しては自己評価表を取り組む意欲が低いということがわかります。そのことから、ただ自己評価表を導入するのではなく、「うまく使いこなせていない生徒には助言・指導をする」ことや、目標設定が無い場合は生徒の意欲が低くなることから、「検定等の目標が無い場合は短期（1時間～単元）の到達目標を設定する」必要があると考えられます。

ループリックで自己評価をします。観点はできるだけ詳細にする必要があります。高次の評価になるために必要なポイントは下線を引きました。また、できたという基準（70点）を統一しました。

※実際のプリントの抜粋です。

評価	観 点
A	自分の力で問題を解き、まわりの人に教えることができた。
B	自分の力で問題を解くことができた。
C	まわりの人に教えてもらいながら問題を解くことができた。
D	問題を解くことができなかった。

※解くことができるとは、採点した場合の70点以上を指す。

日 時	授業内容	評価	評価の理由（具体的に、根拠を示して）	印
木 4	模擬問題4 実習	B	備考以外は自分の力で解くことができた。F問の組み合わせが苦手だったけどできるようになった。グラフの範囲が分からなかった。	
月 3	模擬6 実習	C	備考以外は自分の力で解いた。並べか えが分からなかったけどできるよになつた。	OK
水 3	模擬7 実習	B	今日自分です。系列の前も前は本 入れてはいたけどできた。	OK
木 4	模擬8 実習	C	今日は少レおすかして先生のほんい この分が、た。ちつとクマあつた。	OK
月 3	模擬9 実習	C	先生のほんいと割合が分からなくて先 生の画面で分かりました。 Good.	OK
水 3	模擬10 実習	C	ラークが分からなかった。でも教 えてもらってできた。久しぶりに出てた。	OK
木 3	模擬11 実習	C	最後の円グラフ以外自分でできたけど 円グラフのほんい割合が分からなかった。	OK

自己評価プリント（10時間ごとに配布）の最後に反省欄設け、自己評価表の取り組みを含めて5段階（最高10点）で評価しました。評価方法や配点は生徒と共有しています。

提出の確認印とともに、必ず一言コメントを記入しました。生徒への学習方法の助言や励まし、初めてA評価を付けた場合は花丸を記入するなど生徒の自己肯定感が高まる工夫をしました。

生徒はループリックをもとに自己評価を行います。授業の様子を見て適切な評価がされていないと判断できる場合は「違うのではないかと」とコメントしました。

生徒のコメントの中には、自己評価表の項目を記入方式だけではなく、「備考」「グラフ」「順位」などの欄を設けて、できたらチェックするという形式にしてはどうか？という建設的な意見がありました。実際に使用している生徒の貴重な意見として、来年度以降は取り入れたいと思います。

生徒の感想に「できるわけがないという気持ちからできるようになって楽しさを感じられた。もっと難しい問題を解いてみたいとワクワクした。」とありました。授業改善をしていくことで、生徒が授業内容を理解し、学習意欲を引き出し、さらに深く学びたいと考えるようになったと言えます。その意欲が自発的な家庭学習へとつながるのではないかと考えました。現在、家庭学習に取り組むシステムが構築されつつあります。しかし、そのシステムを適切に利用しなければ意味がありません。文部科学省は「教員は学び続けなくてはならない」と示していますが、私たち教員一人ひとりが教育の専門家であることを自覚し、日々の授業の省察から指導方法を追求していかなければなりません。そのためには、自らの指導が適切かを確認する場面が必要です。それは、考査や模試の結果であったり、検定の結果であったりと比較しやすい数値化できるものが良いと思います。授業改善は1度したら終わりではなく、ようやくスタートラインに立った段階です。研究推進委員会はあくまで授業改善のきっかけです。若手の先生を中心にさらなる授業改善に取り組んでください。